

令和元年度消防防災航空隊長会議を開催

令和元年6月6日(木)～令和元年6月7日(金)の二日間に亘り、東京都(全国町村会館)において令和元年度消防防災航空隊長会議を開催いたしました。

【1日目 6月6日(木)】

- | | | |
|---------------|---|---------|
| 13:35 ～ 挨拶 | 総務省消防庁次長 | 横田 真二 様 |
| 13:55 ～ 講演Ⅰ | 「最近の総務省消防庁の動向について」
総務省消防庁広域応援室航空係長 | 殿谷 英彦 様 |
| 14:30 ～ 講演Ⅱ | 「消防防災航空隊の危機管理」
危機管理・リスクマネジメント専門家
航空評論家(元日本航空機長) | 小林 宏之 様 |
| 17:00 ～ 意見交換会 | | |
| 挨拶 | 全国航空消防防災協議会副会長代理
(東京消防庁警防部参事兼警防課長) | 竹泉 聡 様 |

【2日目 6月7日(金)】

- | | | |
|-------------|---------------------------------------|---------|
| 9:30 ～ 講演Ⅲ | 「消防財政」
総務省消防庁消防・救急課課長補佐 | 伊藤 信宏 様 |
| 10:30 ～ 講演Ⅳ | 「安全文化の醸成について」
エアバス・ヘリコプターズ・ジャパン(株) | 竹内 繁吉 様 |
| 12:00 ～ | 質疑応答 意見交換等 | |
| 12:10 | 閉会 | |

〈隊長会議に参加して〉【アンケート結果より抜粋】

- ・航空隊に関する様々な事案を理解することができた。航空隊を取り巻く環境は厳しいが、安全運航に向け様々な課題をクリアできるよう努力していきたい。
- ・消防庁の動向については、毎年方向性を伝えていただきたい。
- ・操縦士の確保や養成について、国が力を入れて取り組みをしている熱量が伝わった。
- ・消防庁の施策の柱となるWパイロットに係る運航体制の基準の通知に関する話や小林先生のお話はとても感じるどころがあった。自隊でのコミュニケーション作りなどに役立てて行こうと思った。
- ・「消防防災航空隊の危機管理」の講演感銘を受けた。是非行動を起こしたい。また、航空隊だけでなく幹部職員にも受講させたいと思った。
- ・小林先生の講演は、危機事象への対応を任務としている消防全般に通じるもの。市の安全管理研修の参考としたい。
- ・「消防財政」の全般的な内容を学ぶ機会がなかったので今回は大変有意義であった。
- ・消防財政についてもう少し詳細を知りたい。ヘリの財政措置については桁の違う大きな労力を必要とするので、行政職として知識を十分なものとしてほしい。
- ・「安全文化」～SMSの考え方等について、構築するのは時間がかかるかもしれないが、内容は理解できた。
- ・消防大学の航空隊長コースのカリキュラムにはなかったCRMを2コマ学ぶことができ、講師の方々のそれぞれの思いや考えを聞き、今後の機内活動に活かしていかなければならないと感じた。
- ・隊長、R隊長、管理職など背景が様々なので、それぞれの立場にたった研修も必要と思う。
- ・研修時間が短い。あと半日でも増やしていただきたい。

※ 今回の隊長会議では、4名の講師の講演内容について、大多数の方から「お褒めの言葉」をいただきました。
また、総務省消防庁の「安全」に対する取り組みについて、熱意が感じられたとの意見が寄せられました。

・・・など、多くの意見を頂きました。